

整理された市の課題についての議論 と今後のテーマについて

1. 資料2でテーマごとに抽出された課題について整理を行った。
2. 整理された課題に対し、市や地域包括支援センター等がすでに行っている内容を「既存の取組み」に記載した。
3. 「今後必要な取組み」は資料2からの転記に加え、想定されるものを追加した。

テーマ別課題の整理(令和7年6月～令和7年11月)

テーマ	地域包括ケア 推進会議	地域個別ケア会議
1.生活の困りごと (介護予防・生活支援・移動支援・ペット等)	○	○
2.認知症	○	○
3.権利擁護(虐待含む)		○
4.見守り	○	○
5.ケアラー支援	○	○
6.防災		○
7.医療・介護連携	○	○
8.多分野・多文化・地域共生	○	○
9.地域で支える仕組み	○	○

1～9のテーマごとに、今回期間に話し合われたものについて○で記載した。なお、推進・個別両方で議論がなされたテーマは網掛けとしている。

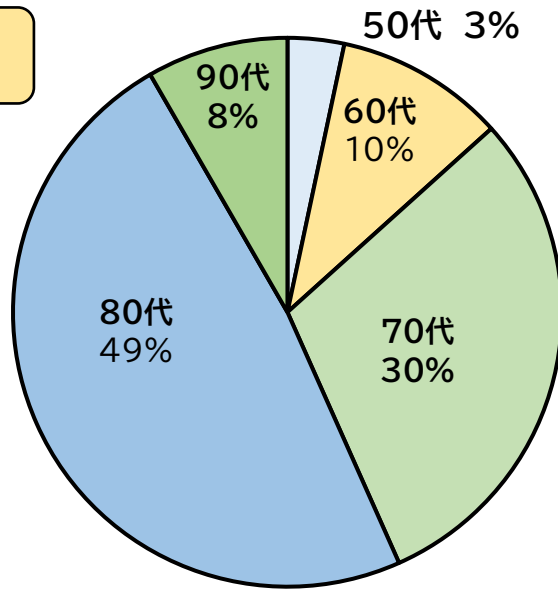
松戸市地域ケア会議 課題に対する方向性

地域包括ケア推進会議や2層ワーキングでの 検討・取組の推奨テーマ

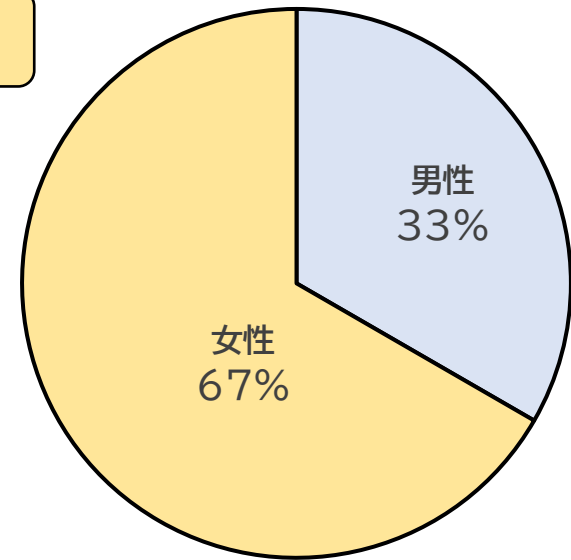
- 地域共生社会の実現に向けた具体的な取組み
- 生活に困りごとを抱える方への対応力向上・拡充

地域個別ケア会議で検討した事例(全60事例)

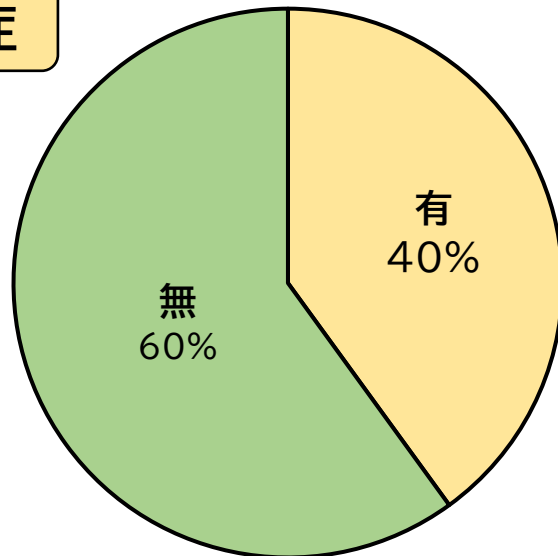
年代



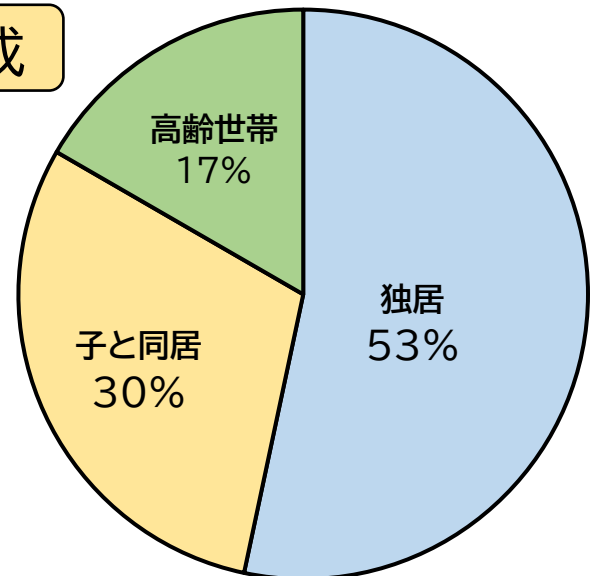
性別



認知症



家族構成



推奨テーマ「地域共生社会の実現に向けた具体的な取組み」

整理された課題	関連テーマ	既存の取組み	今後必要な取組み
<p>【多文化支援等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多言語・多文化の方への支援機関やコミュニティー等の把握、連携ができていない。(個15) ○日本語の習得度・言語の違いにより、コミュニケーションの困難さがある。(本庁) <p>過去の個別ケア会議、推進会議で議論した課題</p> <p>○在日外国人高齢者への見守り等の支援対策や課題の整理が必要。</p> <p>○日本語が不自由な外国人高齢者の支援と対応方法。</p> <p>○地域イベント等の参加者が固定されてしまっており、若い世代、障害者や外国人など参加出来ていない人も多い。</p> <p>○支援対象者が外国人であるケースが増加、相談窓口や支援機関が少ない。</p> <p>○外国籍の高齢者と地域との共生や相互理解。</p>	<p>8. 多分野・多文化・地域共生</p>	<p>【広報広聴課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国人相談窓口 ○市政情報の提供の多言語化(市公式HP) <p>【国際推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多言語生活ガイドブック(6言語) ○モバイル通訳機の導入(※) ○国際交流員(CIR)の配置(※) ○行政通訳の派遣(※) ○多言語ホームページ、SNSを活用した情報提供 ○多文化共生ワークショップや講演会の実施 <p>※原則、本庁舎内窓口対応</p> <p>【松戸市国際交流協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語教室の実施 ○通訳、派遣ボランティア制度 ○まつど国際文化大使 ○日本人市民、外国人市民が交流できるイベント <p>【国(出入国在留管理庁・文化庁)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン 	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしい日本語の更なる周知。 ○多言語ウェブサイトの更なる周知。 ○多言語版松戸市生活ガイドブックやウェブサイトの普及。 <p>過去の個別ケア会議、推進会議で議論した今後必要な取組み</p> <p>○通訳サービス。</p> <p>○パンフレット等の多言語対応。</p> <p>○地域包括支援センター等の支援機関・支援者への情報提供、研修会の実施。</p> <p>○公的手続きに同行・通訳する際の交通費負担等の活動継続支援。</p> <p>○健康マイレージのアプリ化やQRコード、WEBの活用促進等。</p>

「地域共生社会の実現」をテーマに議論した経過

○令和4年度第2回

「多問題を抱える世帯への対応の現状、課題や必要な取組み」について議論

※「高齢者で支援を要する(障害を有する)家族への支援、若年の要支援者とその家族の支援」が課題として整理された

○令和5年度第1回

「他分野連携による適切なケア移行の支援(ケア移行の現状や課題、必要な取組み)」について議論

※「多問題を抱える世帯への支援(軽度障害のある家族の支援、児童虐待を踏まえた世帯全体への支援等)」が課題として整理された

○令和5年度第2回 ○令和6年度第1回

「様々な課題(ヤングケアラー、若年要介護者、8050世帯等)を抱えた世帯の支援(地域での対応状況、必要な取組み)」について議論

※「様々な要因で社会参加が困難となった方との地域との繋がり、生きづらさや障害に関する地域の理解」が課題として整理された

⇒これを機に、**令和6年度より推奨テーマの見直し**がされ、**「ケアラー支援」が新テーマ**として設けられたことにより、**令和6年度第1回市ケア会議では「ケアラー支援」について議論**

○令和6年度第2回

「複合した課題を有する事例(セルフネグレクト等)の紐解き」から、現状と課題の共有、地域として出来ることについて議論

※虐待・セルフネグレクトが疑われる個別事例を整理、課題やリスク要因について検討された

「地域共生社会の実現に向けた具体的な取組み」として、「**多分野・多文化・地域共生**」にかかわる様々な課題について、これまで市ケア会議にて議論されてきた

⇒「**多分野・多文化・地域共生**」は、**継続的・恒常的に検討されるテーマ**といえる

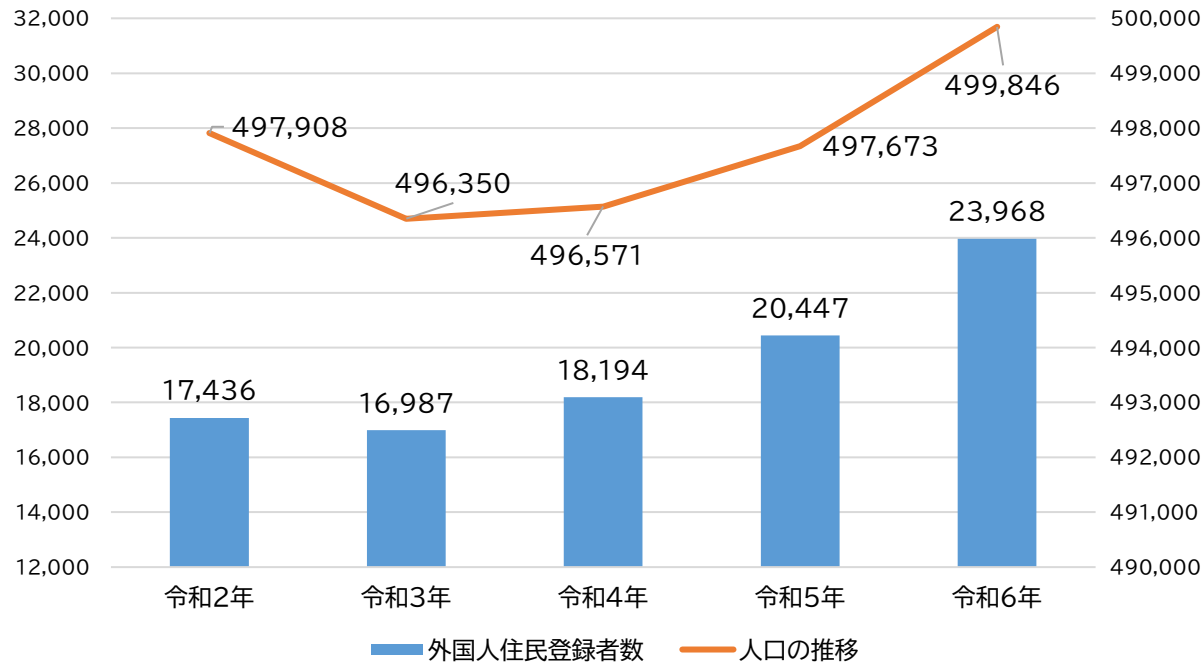
地域包括支援センターにおける相談事例

事例番号	事例概要
R7① 個別16	本人は <u>外国人</u> 。 80歳代、独居。心疾患、慢性腎不全あり。介護保険申請中。 本人は外国出身で、 <u>日本語でのコミュニケーションは円滑でない</u> 。認知機能低下も疑われるが言葉の不理解で未精査。身体機能低下、生活支援が必要であるも、 <u>本人の意思の確認が言葉や認知機能低下で困難</u> 。
R7① 個別46	本人(70歳代)及び配偶者は <u>外国人</u> 。40年程前に来日。4人家族。 本人及び配偶者は、 <u>日本語があまりできない</u> 。介護保険の申請と生活保護の申請のため市役所に相談に行ったが、取り合ってもらえなかった。包括に相談に来るも、片言の日本語と母国語のスマホの翻訳機能にて2時間に及んで対応したが、 <u>制度の理解までには及ばなかった</u> 。
R5② 個別7	本人(40歳代)は、要介護5、くも膜下出血後遺症で四肢麻痺、会話や意思表示ができない。 キーパーソン(以下、「KP」)は、 <u>日本語がわからない、文化・習慣が違う、外国人</u> 。 主治医からKPに本人への胃瘻造設を提案したが、KPは「体に穴を空けるなんてとんでもない」という理由で拒否。 <u>医療用語や制度への理解を得ることが難しい</u> 中で、民間の通訳ボランティアなどを活用し、胃瘻造設手術が実施された。
R7② 個別15	80歳代。介護認定は自立。集合住宅に独居。身体、認知機能の低下はない。集合住宅で自立した生活をしていたが、 <u>隣人の外国人とトラブルを繰り返し</u> 、警察介入も頻回にある。本人は <u>多文化・多言語の方の理解が難しく</u> 、本人自身も強いストレスをがえる。

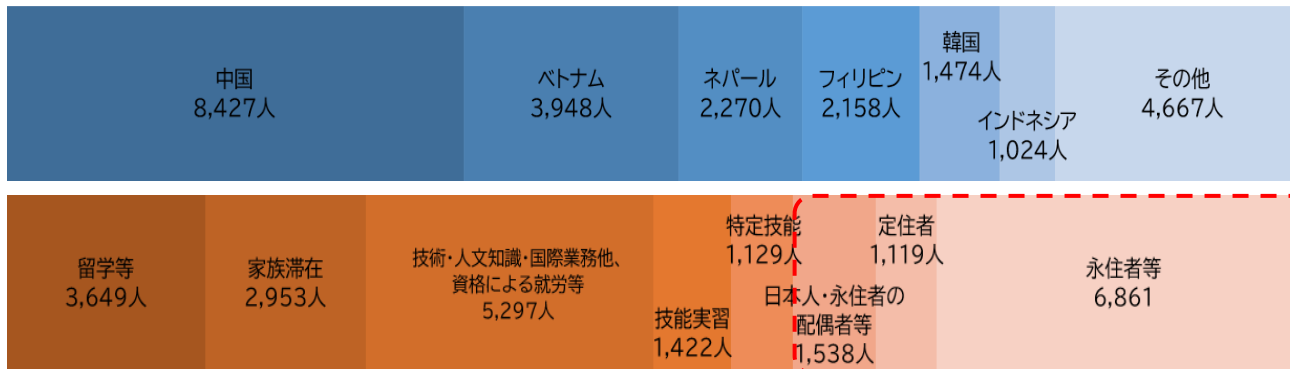
松戸市在住の外国人の状況

地域包括ケア推進課 作成

●松戸市の人口推移と外国人住民登録者数(令和6年12月末現在)



●松戸市在住外国人の内訳(令和6年12月末現在)



○ 出入国在留管理庁「令和6年12月末現在における在留外国人数について」によると

●日本の在住外国人数は、376万8,977人で、過去最高を更新。

前年末341万0,992人
前年末比35万7,985人
(10.5%)増

●千葉県の年齢別外国人数は、65歳以上が、1万262人
全体比率は、4.3%

●千葉県の外国人数は、23万1,614人全国の都道府県別で第6位の多さとなっている。

●松戸市の外国人数は、千葉市、船橋市に次いで、県内第3位である。

●松戸市の外国人比率は、4.8%
松戸市の総人口 49万9,846人
松戸市の外国人数 2万3,968人

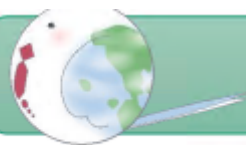
松戸市が作成している市民向けの情報一覧

●多様な言語を活用した情報提供

出典：松戸市「松戸市多文化共生庁内推進指針 令和6年2月改訂」を参考

	内容	対応言語	担当部署
発行物等	外国人向け生活ガイドブック	英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語	国際推進課
	介護保険被保険者証及び介護保険納入通知に関するチラシ	英語、中国語、韓国語	介護保険課
	生活保護のしおり及び概要版	英語、中国語	生活支援課
	医療機関マップ	英語、中国語、韓国語、ベトナム語	健康医療政策課
	国民健康保険 多言語ガイドブック	英語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、ネパール語	国保年金課
	市税のしおり	英語、中国語、ベトナム語	債権管理課、税制課、市民税課、固定資産税課、収納課
	町会・自治会加入促進案内(チラシ)	英語、中国語、ベトナム語	市民自治課
	外国人市民向け家庭ごみの分け方出し方	英語、中国語、韓国語、ベトナム語	廃棄物対策課
	住まいの探し方ガイドブック	英語、中国語、韓国語	住宅政策課
	内水ハザードマップ	英語、中国語、ベトナム語	下水道整備課
表示等	避難誘導表示板(巻看板)の取付及び案内板の設置	英語	危機管理課
	避難所開設・混雑状況配信サービスの一部	英語、中国語、台湾語、韓国語	危機管理課
	災害時における情報入手手段まとめ	英語、中国語、ベトナム語	危機管理課
	総合案内AIチャットボット	英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語	デジタル戦略課
	広報まつどの多言語翻訳・音声読み上げ	英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語	広報広聴課
	市公式ホームページの自動翻訳	英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語	広報広聴課
その他	行政通訳の派遣 (市役所内行政手続きのみ)	英語、中国語、ベトナム語	国際推進課

やさしい日本語の概要



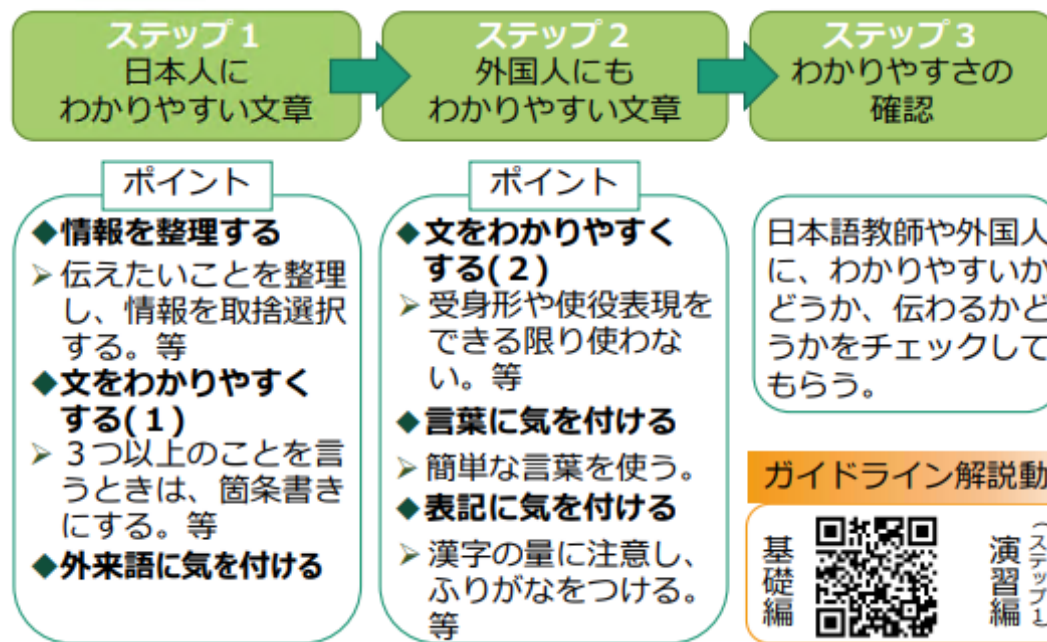
在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインの概要



やさしい日本語は、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと。

- 日本に住む外国人は、この30年で約3倍に増え、日本に住む外国人の国籍が多様化。
- 外国人が日本で安全に安心して生活するためには、国や地方公共団体からのお知らせなどを正しく理解することが必要。
- 多言語化を進めているが、これまでの日本語に関する調査によると、「日本語」を「日常生活に困らない言語」とした外国人は約63%、「希望する情報発信言語」として「やさしい日本語」を選んだ外国人は76%。
- やさしい日本語による情報提供・発信を進めることが有効であり、取組を進めるため、出入国在留管理庁と文化庁は、このガイドラインを作成。

1. 在留支援のためのやさしい日本語 作成の3ステップ



2. 書き換えツールの紹介

やさしい日本語を作成するときに活用してもらうため、無料で公開されている日本語の難易度を調べるツールを紹介している。

- ◆ やんしす
- ◆ やさにち
- ◆ チェッカー
- ◆ リーディング
- ◆ チュウ太

3. 変換例と演習問題

- 実際の書き換え例を示して、気を付けるポイントを説明している。
- 演習問題を掲載し、実際に書き換えの練習を行うことができるようにしている。

ガイドライン解説動画

基礎編



演習編
(ステップ1)



演習編
(ステップ2)

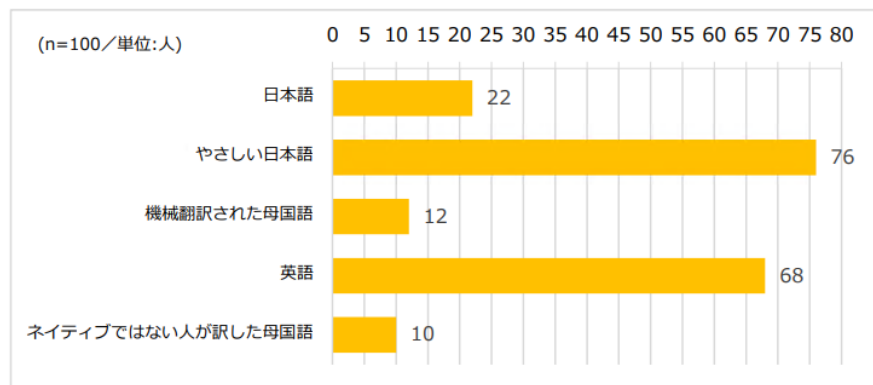


YouTube法務省
チャンネルにて
公開中。

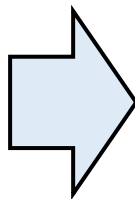
やさしい日本語の概要

(3) 希望する情報発信言語

出典:東京都に在住外国人向け情報伝達に関するヒアリング調査報告 2018年3月 東京都国際交流委員会



- 希望する情報発信言語について尋ねたところ、「やさしい日本語」を希望する回答者が最も多く、76名という結果となった。その次に「英語」が多く、68名から回答が集まった。



さまざまな場面
でのやさしい日本
語の活用に期待さ
れている

令和6年度 在留外国人に対する基礎調査

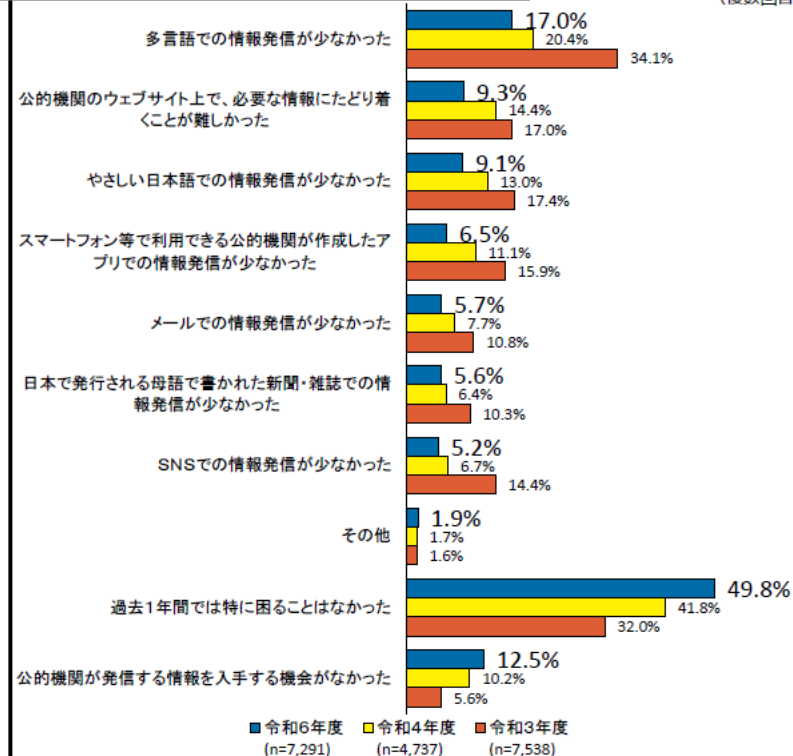
令和6年度 在留外国人に対する基礎調査－主な結果④(情報入手・相談対応)－



- 公的機関が発信する情報入手の際の困りごととは、困りごとがあった中では、令和4年度から上位3項目は変わらず、「多言語での情報発信が少なかった」(17.0%)、「公的機関のウェブサイト上で、必要な情報にたどり着くことが難しかった」(9.3%)、「やさしい日本語での情報発信が少なかった」(9.1%)が多い。「その他」を除く困りごとは一貫して割合が減少し、「過去1年間では特に困ることはなかった」は令和4年度から8.0ポイント増加している。
- 公的機関に相談しようとした際に困ったことは、困りごとがあった中では、「どこに相談すればよいか分からなかった」(16.2%)、「相談するために仕事や学校等を休まなければならなかった」(12.6%)、「通訳が配置されていなかった又は少なかった」(8.4%)の順で多い。

公的機関が発信する情報入手の際の困りごと

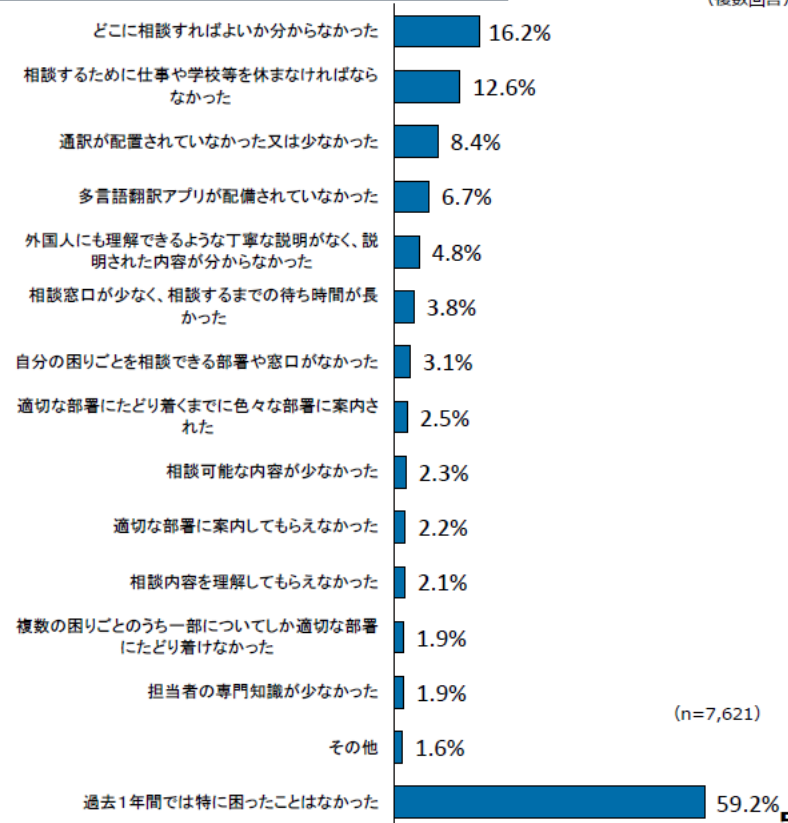
(複数回答)



※ 令和6年度調査及び令和4年度調査は過去1年間では困ったことが調査対象。
令和3年度調査では期間の指定はしていない。

公的機関に相談しようとした際に困ったこと

(複数回答)



(n=7,621)

議 論 1

推奨テーマ「地域共生社会の実現に向けた具体的な取組み」

外国人高齢者が安心して暮らせる地域づくり
～支援者や地域の役割について～

- 地域の現状と課題の整理
- コミュニケーションの工夫と支援者ができること、実践してること
- 支援者が持つておくべき情報とはなにか

推奨テーマ「生活に困りごとを抱える方への対応力向上・拡充」

整理された課題	関連テーマ	既存の取組み	今後必要な取組み
<p>【社会資源が不足している】 高齢者を地域で支えるためには、見守りや居場所などの社会資源が必要不可欠であるが、現状では地域の資源が十分に把握・整理されておらず、課題である。(個1、個13、個18、小金、馬橋)</p> <p>【普及啓発】 高齢者を支えるための社会資源がどれだけあるのか、社会資源の重要性について市全体に周知・啓発が不足している。(個10、個28、個45、個57、馬橋)</p>	<p>2.認知症</p> <p>4.見守り</p> <p>5.ケアラー支援</p> <p>9.地域で支える仕組み</p>	<p>【地域包括ケア推進課】 ○まつど地域つながりマップ(準備中)</p> <p>○第1層、第2層多機能コーディネーターの配置</p> <p>【社会教育課・市民自治課・スポーツ振興課】 ○まつどまなびいネット</p>	<p>【取組検討・連携強化】 ○まつど地域つながりマップのリリース準備</p> <p>○まつど地域つながりマップに掲載する社会資源の充実</p> <p>○まつど地域つながりマップの普及啓発と活用の推進</p> <p>○まつどまなびいネットとの連動</p>

まつど地域つながりマップの現状報告

平成30年 紙媒体で
資源マップを作成

令和6年度 第1回
松戸市地域ケア会議での議論

市にて協議

予算要求

地域包括への説明

委託会社との協議

カテゴリーの検討

ベータ版リリース

社会資源の抽出

令和7年度 第2回
松戸市地域ケア会議での議論

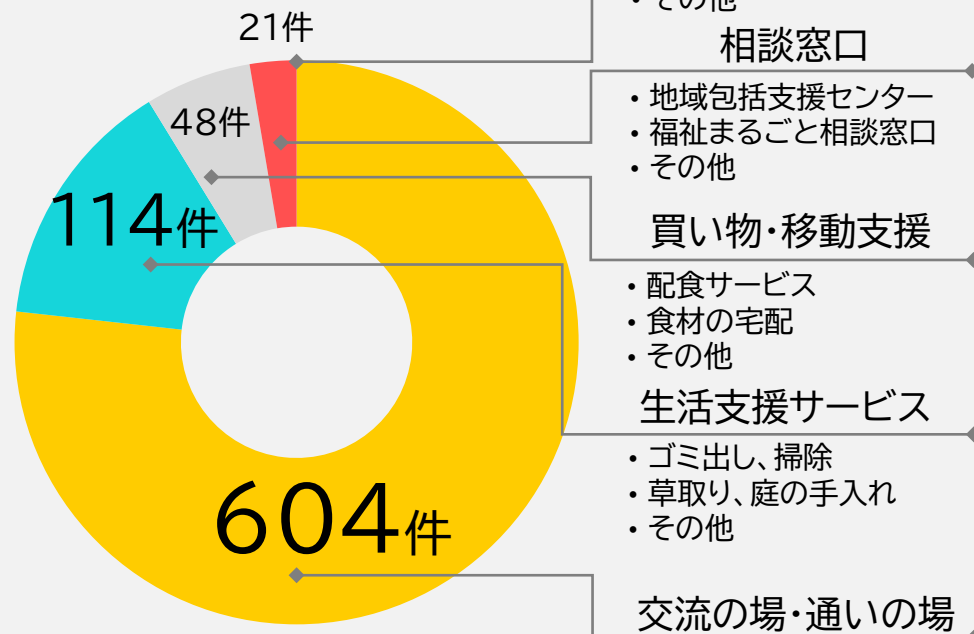
リリース予定

運用状況を見ながら随時更新予定

検討結果

- 地域資源をまとめたマップの作成が必要ではないか
- 市全体の情報が求められている
- 地域共生社会の実現を目指し、誰もが通える場が必要
- インターネットで検索できる仕組みがあるといいのではないかと
- 掲載する分類の整理が必要

現状のカテゴリー 抽出状況



※令和7年12月時点
公開・非公開情報全ての情報

まつど地域つながりマップの活用について

生活支援コーディネーターの役割
※地域支援事業実施要綱(厚生労働省)参考

資源開発

重要

ニーズと取組のマッチング

ネットワーク構築



第2層
多機能コーディネーター
(※松戸市独自の名称)

まつど
地域つながりマップ

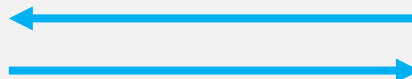
多機能コーディネーターの
活用場面

- 地域資源の把握
- 地域ニーズ地域課題の把握
- ネットワーク構築
- 地域課題の解決
- 地域資源の開発・活性化
- マッチングへの参画



地域包括支援センター

高齢者福祉的な
視点の補完



地域福祉的な
視点の補完

本人・家族・支援者等の
活用場面

- ホームページ上で市全体の情報を見ることができる。
- 支援者等が地域資源活用につながる。
- 遠方の家族や忙しくて時間がない方も自分のタイミングで地域資源を見ることができる。



主任介護支援専門員等



保健師等



社会福祉士等

生活支援体制整備事業の推進

生活支援体制整備事業とは

高齢者が自立して地域で日常生活が送れるように、総合事業に該当しない、インフォーマルサービスの提供体制構築と地域の支え合いの体制づくりを推進することを目的としており、生活に困りごとを抱える方への対応力向上・拡充する取組みの1つ。

まつど地域つながりマップの活用

「選択肢を増やす」「地域活動への参加促進」「支援の裾野を広げる」等の効果を想定し、生活支援体制整備事業の推進に向けた具体策の1つ。

議 論 2

推奨テーマ「生活に困りごとを抱える方への対応力向上・拡充」

まつど地域つながりマップについて

- ◎ 支援者が必要とする社会資源の充実について
- ◎ つながりマップの活用について

松戸市地域ケア会議 課題に対する方向性

地域包括ケア推進会議や2層ワーキングでの 検討・取組の推奨テーマ

○地域共生社会の実現に向けた具体的な取組み

○生活に困りごとを抱える方への対応力向上・拡充

- 各圏域での地域包括ケア推進会議や2層ワーキングについて、これらのテーマに沿った議題とし、地域ケア会議と2層ワーキングの連動を意識した取り組みを行う。
- 検討・取組の結果を再び市地域ケア会議にて集約する。